

【令和4年度春合宿に係る石楠花会の判断と今後の方針】

ワンダーフォーゲル部（以下当部）は体育会所属のクラブであり大学よりクラブ活動への金銭面の支援や授業公休扱いなどのメリットを得ている。そのため体育会本部、大学学生部が認める活動が大前提となる。現在ではクラブ活動中の事故や遭難などが発生した場合は、当事者だけでなくOB会、大学にも応分の責任が発生し、事故即訴訟そして億単位の賠償金が課せられることもある。そのため大学学生部、OB会長連合会が一体となり事故を起こさない体制を作る取り組みを行っている。事故に関しての学生部からの要望も非常に厳しくなっており、個々の運動部の活動計画を全てチェックし許可を貰うシステムになっている。当然、嘗て二人の部員を失った当部にもその経験を踏まえ事故を起こさない安全なクラブ活動が求められている。

当部には活動の方向性を定めた規則（以下部則）がある。当部の活動はこの部則を遵守することが大原則であり、その部則では特殊な装備を使用しての積雪期の登山は禁止している。しかし当部は四季を通じて山岳だけでなく島嶼などの自然を対象として活動するため、安全や目標の達成を担保するための装備、技術の必要から、過去において部則の改定や解釈の変更はあったが、部則を逸脱した活動は行われていない。部則の改定は当然可能であるが、改定理由を明確にし、議論するなど改定手続きの準備は必要である。

今回の春合宿企画で、企画者は『今後ワングルが雪山登山を目指すために』との目標を掲げている。これは部の活動方針に係る事案であり部則の改定も検討する必要があるテーマである。しかしその目標を目指す合宿としながら、「装備レンタル」や「ガイド雇用」「小屋泊まり」での積雪登山という合宿内容には、部則を改定して活動の方向を変更する意図があるとは思えず。また装備、宿泊などを含む安全面においても事前準備不足から撤退した夏合宿の反省を生かす努力を見る事ができない。従って今回の北横岳山行を春合宿としては許可できないとした。

企画者から、レベルの低いことを『恥』とOBは捉えないでほしいとの意見があったが、当部の活動について部則では『困難を求めて難易度をあげるべき』とは定めていない。当部は体育会クラブではあるがより高度なレベル、難易度の高いコースをやみくもに求めるのではなく、ワングルらしさ、学生らしさ、成蹊アルピニズムに則った活動などの尺度も活動の基準である。従って個々の活動の難易度の低さを『恥』とすることはなく、成蹊の学生、成蹊のワングルらしさの点にこそ『恥』や『品位』という基準を求めたい。そして安全で快適な、成蹊大学体育会としてふさわしいクラブ活動という視点が求められている現在、従来『お金は出すが現役の活動に口は出さない』という不文律があった石楠花会は今後、OB会が委任した監督を中心とし若手OGOBの協力を得て当部活動に積極的にコミットメントしていく必要がある。そして大学唯一の山岳系団体のOB組織として、体育会OB会長連合会のメンバーとして成蹊大学、成蹊会に対し発言していくべきであり、当部及び監督や若手OGOBを、責任をもって支えることが必要である。